

# 第1回神通会講演会 講演録

「10代・青春、夢は世界に向けて」

—学びと立志の始まり—

講師 数土 文夫 (中部 11 回卒)

# 第1回神通会講演会

令和元年6月19日(水)  
15:30~17:30  
富山県民会館ホール

司会：ただいまより、第1回神通会講演会を開会いたします。

數土先生には、大変お忙しい中、若い成長期の生徒に有意義な話を聞かせ、将来、世界で、日本で、地元で活躍できる有為な人材の育成に貢献したいという神通会の思いをご理解いただき、ご講演を引き受けていただきました。大変ありがとうございます。

私は、本日の司会を担当いたします、神通会幹事長の柳野と申します。至らない点多々あろうかと思いますがどうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、神通会副会長 翠田 章男より、ご挨拶を申し上げます。

翠田副会長：みなさんこんにちは。ただ今ご紹介をいただきました、神通会副会長をしております、25回生の翠田と申します。25回生といいますのは、今から46年前に卒業した学年でございます。今日は西田会長の代理ということで開演に先立ちまして一言挨拶をさせていただきます。第1回の神通会主催の在校生全校生徒のみなさんへの講演会を開催しましたところ、全校生徒840人のみなさん、父兄の皆様、教職員の皆様、そして神通会の会員の皆様に多数お越しいただきました。本当に第1回を主催する立場として感謝申し上げます。ありがとうございます。また今日は、大変お忙しい中、大先輩でもあります數土文夫先生にお越しいただきました。本当にお忙しい中ありがとうございます。また、先生には旭日大綬章を春の叙勲で受章しておられます。本当におめでとうございます。

さて今、大変混沌とした時代でございます。今日も全校生徒840人とお聞きしましたが、我々の頃は優に1000人を超えておりました。2008年に1億2800万人、日本の人口がピークを迎えて今だいたい1年に80万人、福井県の人口ぐらいが毎年減っているという話でございます。また、デジタル化やグローバル化という非常に大きな変化の中で混沌とした時代であります。いろんなことが起きる中で、想定外という言葉もよく聞かれる昨今ではあります。そういう時代であればこそ古典と呼ばれるような良書に触れるとか、あるいはすばらしい先達のお話をうかがう、こういう機会は非常に意義のあるものだと思います。ましてや学び舎を同じくする大先輩のお話ということであればなおさらのことでございます。今日全校生徒の皆さんに一つお願いしたいと思うのは、先生のお話を聞いていただいて、ただ知識を持ち帰るということではなく、人生の一つの貴重な体験として経験していただきたいと思うわけです。皆さんの中にもこれまで培ってこられた、良識とか人生観、哲学のようなものがおありになるとと思います。そのようなものと先生のお話とが化学反応するような、そういう場になってもらいたい。この大きな会場が一つの大きな理科の実験室のように、至る所で

化学反応がおきる、そのような講演会になることを祈っております。どうか今日の講演が皆さんにとって素晴らしい経験になることを心から祈念して、私の挨拶とさせていただきます。今日はよろしく申し上げます。

司会：続きまして、富山県知事 石井 隆一様より祝電をいただいておりますので、ご披露を申し上げます。

数土 文夫 JFE ホールディングス特別顧問をお迎えしての第1回神通会講演会のご盛会を心からお慶び申し上げます。

数土さんは、川崎製鉄や JFE ホールディングスの社長、日本放送協会経営委員会委員長などを務められ、東日本大震災後、極めて厳しい経営環境に直面した東京電力の会長として、その立て直しを果敢に推進されました。この間、日本を代表する経営者として、各分野で優れたご見識と手腕を存分に発揮されており、令和元年春の叙勲において、旭日大綬章の栄に浴されました。改めまして、心からお祝いを申し上げます。

本日は、このように豊富な経験と高い識見をお持ちの数土さんをお迎えしての貴重な講演会であり、多くのことを学んでいただきたいと思います。特に在校生の皆さんには、10代のときに高い志、夢、情熱を持って自己研鑽することの大切さを実感し、今後の人生に活かしていただきたいと思います。

数土さんには、これからも、ふるさと富山県と日本の限りない発展のため、ご指導、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

本日ご参会の皆様のご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

令和元年6月19日 富山県知事 石井 隆一

それでは、これより数土 文夫先生による講演となります。

講演に先立ち、翠田副会長と福島校長先生が退席されますので、そのまましばらくお待ちください。

お待たせいたしました。それでは、最初に数土先生の略歴をご紹介します。

数土先生は、富山中部高等学校（第11回生）卒業後、1964年3月に北海道大学工学部を卒業され、同年4月に川崎製鉄株式会社に入社されました。

2001年6月には、川崎製鉄株式会社 代表取締役社長に就任され、

2003年4月には、JFE スチール株式会社 初代代表取締役社長、

2005年4月には、JFE ホールディングス株式会社 代表取締役社長、

2014年7月からは同社特別顧問に就任され、現在に至っております。

その間、2011年4月から2012年5月までは、日本放送協会 経営委員会委員長、

2014年4月から2017年6月までは、東京電力ホールディングス株式会社 取締役会長を歴任されるなど、大変立派な経歴をお持ちの方でいらっしゃいます。

また、この春の叙勲において、數土先生には「旭日大綬章」受章の榮に浴されております。誠におめでとうございます。

本日は、「10代・青春、夢は世界に向けて」、サブタイトル「学びと立志の始まり」という演題でご講演をいただきます。それでは、數土先生よろしく願いいたします。



講師：ただいま、紹介いただきました數土です。今日、入ってきて、非常にいい感じを持って皆さんとお会いすることが出来ました。なぜかといえば、みんな賢そうな顔をしている。本当にこれはなかなかみなさんのような賢い顔を持った人がこんなにたくさん集まるという会に、私もあんまり出たことがない、非常に喜んでおります。

また、先ほど色々お話がありましたように、私もこの神通会、富山中部高校第11回卒業生、ちょうど今から60年前に中部高校を卒業することができました。本日はこういうすばらしい記念の会に話させていただきまして、本当に名誉に思っております。よろしく願いいたします。

私の本日の題は「10代・青春、夢は世界に向けて」。人生100年時代と言われておりますけれども、勝負はこの10代に始まると、そういうことを今日、よくよく考えていただきたい。そしてまた本当に素晴らしい青春の時間をもっていただくようにと、そういう思いで話させていただきます。10代というのは学びと志を立つ、大志をいなく、その始まりだということでもあります。始めさせていただきます。

## 1. 「青春」について

青春というのは何かと、これは中国の古典、2000年くらい前から始まりました、5行説に始まる思想からとっているわけです。1年の四季、これを、青、朱、白、黒。春のことを青春、夏を朱夏、秋を白秋、それから冬を玄冬。昔は人生50年とっておりましたから、人生に例えた場合には青春というのは本当に短い時間だったと。今は100歳になろうかとしているわけですから、青春は15歳から20代、27、28歳くらいまでではないかと思うのですが、これが非常に重要だということでもあります。我が富山中部高校は団旗、先ほどありましたように青龍、朱雀、白虎、玄武。これはやはり中国の5行説からとった、方向を表しているわけです。青龍というのは東、青春のように朝日が昇ってくる、朱雀、暖かい南、夏、白虎、西、玄武、北とこれからとられているわけです。私も皆さんと同じ頃、血湧き肉躍るような運動会、各団で競ったことを非常に覚えております。

## 2. 人生の青春時代 -立志の始め-

人生の青春時代、立志の始めということをお願いいたしますけれども、自らの人生の夢、希望、目標について最初に思い描くのが、皆さんがいま位置している青春時代だという

ことであります。これからも話するように、歴史、人類 2500 年、あるいは 3000 年の歴史において名を残しているような人達は、やはり青春の時代に非常に多情多感な、あるいは忍耐力、あるいは夢、あるいは希望いろんな人生を過ごしている。みなさん、論語というのはご存知かどうかわかりませんが、孔子は「吾、十有五にして学に志す」、十有五というのは、十プラス五ということですが、15 歳の時に自分は学問で一生身を立てていこう、世の中に、社会の為に尽くして自分の生活のベースをそこに置いていこうと、そういうことを言ったわけですね。皆さんも今、15、16、17、18 になる人がいるかちょっとわかりませんが、何れにしてもこのときに人生これから 100 年は生きるのではないかと。皆さんここにおられる、840 人の半分以上は確実に 100 歳以上生きるだろう、これはいろんな人がいま分析してそういうことを言っています。ロンドンビジネススクールの女性のプロフェッサー、リンダ・グラットンさんがつい 2、3 ヶ月前にそういうことを言うために日本に来られました。2007 年に生まれた日本人の半分以上は 107 歳以上寿命をもつ。そういうときに今まで人生 50 年、60 年、あるいは 70 年だったかもしれないが、それだけ長生きするわけですから、どうしたら自分が充実した人生を送るかということができるだけ早い時期に考えてみる。たとえ受験勉強の最中にでも、少しは、寝る前に、お風呂に入った時、あるいは勉強に疲れた時に、そういうことを考えてみるのが非常にいいのではないかと、有意義ではないかと。私が言いたかったことは、志を持つ、立てる立志のはじめの期間ですよと。こういうことを言っている私自身がみなさんと同じ時期に人生に希望、志を持っていたかということ、あんまりそういうことを意識していなかった。その時には私の頃は人生 50 年、定年も 50 歳だったと、あとは隠居して 60 歳か 65 歳で人生全うと、そういうことだったんですけども、今は 100 歳までですから、もうちょっと作戦立てないとダメだとそう思っております。

### 3. 人生の青春時代 -学びの始め-

もう一つ、人生の青春時代は別の観点から言ったら、勉強しないとダメだ、本格的に学びの始めだと。これは私は 10 年くらい前から、精神あるいは頭脳を専門にする大学の先生からお話聞いたんですけど、人間の心と脳、心といっても脳だと思うんですけど、19 歳がピークだと。記憶力、理解力、だから受験の勉強する、暗記する 19 歳がピークだ。正義感、倫理観こういうものも、人生の中で正義感、倫理観持たないとダメなんですけれど、そういうものに一番感受性が豊かに反応するのは 19 歳だと。未知への挑戦意欲、不撓不屈の精神、忍耐力、弱者への配慮。15 歳から 20 代の間、こういうものを持たないで 50 歳とか 60 歳になって弱者に対する配慮だとか、忍耐力だとか、正義感を持とうと思ったってこれはダメだと。皆さんのような時に、本を読んで、あるいは周りの素晴らしい人の話を聞いて、正義感持たないと。この時に一番心がセンシビリティ高い時に、倫理観とは何か、正義感とは何かと。それは本当は知識だけではダメだ。いじめをやっているのをみて、日頃正義感大事だと思っても、その時にいじめを止めるような勇気が出てこなかったら、それは本当に正義感持ったことにはならない。正義感というものの重要性を学んだことにはならない。

これは非常に重要なことです。後からも申しますけれども、19歳プラスマイナス5歳くらいまでの間に、我々は正義感、倫理観、もちろん頭脳、頭の良さを磨きに磨かないとダメだ。ただし、大学受験はもちろん目標ですけれども、これは手段であって本当の目標ではないわけですね。人生の夢、希望、志を達成するために自分はどこの大学に行くかという手段なんですけれども、その手段を目的だと思わないでください。日本は非常に受験勉強が凄まじかったと。実はそれほどではない。日本の受験勉強はそれほど大したことはない。だけどその受験勉強が、大学に行くことが非常に目的だと思って、間違っただけなのに目的だと思って、受かった途端に、大学1年、2年で勉強する時間がなくて、あるいは一服したくて、それで勉強するというのを止めてしまったら、ウサギとカメではないけれども、ウサギが寝て負けてしまうと、そういうことになる。これは19歳の時にピークなんですけれども、こういうことを持ち続けて一生やっていくことを学ぶと、学びの始めですよ。学びの始めの重大な時に学ばなかったら、いかにハンディキャップが多くなるかと。逆にこういう時に学べば、そして実際に自分のものにしていけば人生非常にプラスになるんじゃないかなと、私が今言っていますけど、私が言っているんじゃないで、人類の2500年の歴史が言っている。

#### 4. 人生の格差

今、いろんなところで格差があると言われております。貧富の格差、知識の格差、学歴の格差と。本当に格差はどこから出てくるのか。私は皆さんに非常に今から考えていただきたいと思っております。福沢諭吉は明治時代の世の中をリードしていく先覚者の重要な一人に挙げられる方です。彼は何を言ったかと、『学問のすすめ』というところで「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と、要するに神様は人間の上下関係をもともと造っていない。ただし、この後がすごいのですが、現実には格差はできている、その格差はなんであるのかと、それは勉強しなかったからだぞと。勉強すればその格差はなくなるし、挽回の時間はものすごく出てくる。知識を勉強して、技術を勉強して、実務を勉強して。福沢諭吉の『学問のすすめ』の「学」は知識だとか、本を読むだとか、暗記するとかだけじゃない。実際のを勉強する、そういうことですから。皆さんに私の話を聞く時に、内村鑑三の『代表的日本人 Representative Men of Japan』これを読んでもらったらありがたいと、柳野さんを通じてお願いしました。ここに挙げられております5人の代表的日本人、内村鑑三はこれを英語で書いて世界にむけて出版したわけなんですけれども、これが今から110年くらい前に世界のベストセラーになっております。皆さんは代表的日本人は歴史上5人挙げろと言われてたら誰をあげるでしょう。そこに挙げられた代表的日本人は、それは聖徳太子でもない、明治天皇でもない、織田信長でもない、徳川家康でもない、誰を挙げているかと言ったら西郷隆盛と上杉鷹山と二宮金次郎と中江藤樹、日蓮。内村鑑三はキリスト教者です。だけど、儒学者の中江藤樹と仏教者の日蓮を挙げて。しかもこの5人は非常に若い時、青春時代を順風満帆で過ごしているわけではないわけです。両親に死別したか、生き別れしているか、そういう人達を挙げております。高橋是清という人を聞いたことがある人、手をあげてみてくだ

さい。高橋是清は幕末の頃、密航してアメリカに行って、アメリカで自活しようと思って、それがアメリカ人に騙されて奴隷に売られてしまった。それで慌てて逃れて、日本に戻ってきて、改めてまた友達と留学生になってアメリカにもどっていますけれども。日露戦争の時に、軍費、お金が足りなくて、日本が負けるとなった時に、日本の国債をロンドンとニューヨークでユダヤ人の金融業者から買ってもらって、それによって日本が日露戦争に負けずに済んだ。彼は小さい時に家が貧しくて養子になっております。養子になって高橋という家名をついでいるわけですがけれども。奴隷になった人が大蔵大臣、首相になって、最後は昭和の2. 26事件に反乱軍に射殺されて死亡していますけれども、大変な人です。こういう方達の言っていることは、学ぶことこそ人生だと、学ぶこと自身が格差をなくすのに、学ばなかったら格差ができるのはそれはしょうがないと、だから勉強しなさい、それで学問のすすめという名前が付いているわけです。

もう一つ、この学問をすとか志を立てるとか、あるいは人生のために研鑽するという時に我々が忘れてならないものが一つあります。ちょうど今から110年、100年くらい前、イギリスのロンドンに有名な小説家がおりました。歴史の研究者でもあります。ベネットアーノルドという小説家、エッセイ家なんですけれども、この人は『自分の時間』という本を書いております。『自分の時間』というのは、人間、格差はできるけれど、一番の目的は勉強するために必要にあるにも関わらず、有意義に時間を使っていない。時間というのは誰にでも24時間与えられている。これはあの人に1日24時間あって、あの人に20時間しかない、あの人に天は30時間与えているというのではないわけです。時間というのは人から借りるわけにはいかない。人に貸すこともできない。時間は金で買うこともできない。売ることもできない。全く一人一人に固有に天から授けられているものだ。その時間をうまく使うことを、できるだけ早い時から自分の胸に手を当てて考えてみましょう、とそういうことを言っているわけです。我々は自分の時間というのは特に若い時はそんなに重要だと思わない。死ぬ時になって少しでも生き延びたいと、これはちょっと矛盾しているのではないかと。この青春時代から学ぶことの必要さと、時間、学ぶチャンスは誰にでもある。代表的日本人で示した5人のようにどんなに環境が悪くても勉強はできる、勉強する時間やチャンスは誰にでもあるんだと。自分は貧しくて勉強する時間がなかった、これは代表的日本人に示された人たちに言わせれば、それは自分勝手に他人のせいにしてている。自分のせいにしていない。

私は今、格差時代と言われる時に、今のような話を皆さんにしたかった訳ですが、もう一つこの格差時代の中で、格差なくするために権利を主張しよう。「権利と義務」という言葉があります。私は「権利と義務」という言葉は非常に好きではありません。それは「義務と権利」ではないかと。社会が成り立つために、コミュニティが成り立つために、国家が成り立つために、それはみんな自分の能力、体力、知力、気力、財力、汗、時間そういうものを供出して、義務として富を生み出すようにしてから、富ができれば初めてそれを平等の権利で分かつというのが普通であって、義務を尽くさずに権利だけを主張すると、そういうことはない訳です。皆さんご存知だろうと思うんですけれども、コロンブスがアメリカを発

見した後、英国のピューリタン、新教徒がほんの 30 何人がアメリカに渡って、それで我々の頃はアメリカンインディアンと言っていたんですけれど、現地のネイティブな人たちの協力を得て、コミュニティが成立すると、そういうことになって初めて平等の権利で、みんなやってみましょうと。そのためには肉体であろうが知力であろうがみんな出しあって、協力しあってやってみよう。そういうことをやらなければならないんじゃないかなど。要するに何を言いたいかというと、青春時代に社会に貢献する義務を達成するための、自分のエネルギー、バイタリティそういうものを蓄えるような準備をしておかなければならないとだめだ、それをおろそかにして、時間もおろそかにする、学ぶこともおろそかにする、義務を尽くすこともおろそかにして、格差社会と。こう言ったってこれはやはりだめなんじゃないかなとこう思う訳です。

## 5. 30 年前の日本人の強み

平成 30 年は、あまり日本人が、日本が国家として成功したと言うわけにはいかない、どちらかといえば失敗した 30 年間だったんじゃないかと、非常に私は深く反省しております。1980 年、90 年の時には日本の世界における GDP（国内総生産）はアメリカに次ぐ 2 位でアメリカを追い越そうとしていた。一人当たりの生産力もアメリカに今にも追いついて、追い越そうとしていた。そういう時に、今も生きていらっしゃいますが、エズラ・ボーゲルという人が『Japan as Number One』で何を言ったかといえば、日本が太平洋戦争、大東亜戦争で負けたにも関わらずここまで伸びてきたと、その原因を探った時に日本の成長基盤をなすものは高い学習意欲と読書習慣であると。みなさんは 1 年に何冊本を読んでいらっしゃいますか。（生徒を指名、生徒の答えに、それは教科書ではないですよ、笑）日本は数学力と自然科学力に秀でていて、自然科学力というのは要するに理科、物理、化学、natural science。ただし情報については特に強くないと、情報というのは Intelligence、日本語で情報と言った時に英語で二つある。Information と Intelligence。Information というのは、皆さんがスマホを見たりして得る情報、あるいはデパート行ったらデパ地下で何々売っていますというようなもの。Information は Intelligence ではない。情報を発する側がお金を出してでも聞いてもらいたいものが Information であって、Intelligence は我々が将来のために必要なものを取りに行くのが、自分の汗とかエネルギーとか知恵とかお金を持って、取りに行くのが Intelligence。その Intelligence には強くない。今の IT, AI。これは 30 年以上前に言われたことが今最も当たっているのではないかなとこう思う訳です。今あなたが 13 冊とか 15 冊とか言われましたけれど、調べてみたら東大の大学生に言ったって 3 冊とか 4 冊しかない、ひどいものになると 1 冊しか読んでいない。アメリカは 30 冊も 40 冊も読んでいると、これはやっぱり我々がどこかおかしくなっている。

## 6. 読書、特に「歴史」を読むことの重要性

もう一つ、読書、特に歴史を読むことの重要性というものを皆さんにわかってもらいたい。



なぜ、この歴史を読む重要性かという、これはちょうど明治維新の時に、大久保利通、伊藤博文、そういう人たちが欧米、遣欧使節に行った時に、ヨーロッパの今のドイツの元のプロイセンの首相、鉄血宰相ビスマルクという人が伊藤博文とかに言った言葉で、「愚かなるものは自分の経験だけを頼りにする」。俺はこういうことをやってきたと言う、会社でも、経営者とかでもよくいる。そういう人は大抵、次失敗してしまう。俺はこういうことをやってきて俺の経験によればこうやる、それはだいたい成功しない。賢い人はもう 2000 年の何千人といった、歴史上の人物のことを勉強して、その人達がどんな経緯をとってきたか、成功してきたか、失敗してきたか、そういうことを学んで自分の人生に活かしていく、そういうことを言っている訳です。疑似体験こそ読書の醍醐味。皆さんも今、非常に困ったことがあるかもしれない、どうしようかと、親にも言えないと。困ったことは、みんな過去の偉人が、あるいは伝説になっている人の伝記を読んだら、いろんな困ったことが書いてありますから、それがヒントに必ずなる。それから今自分が悩んでいることが、いかに小さなことかということがわかってきて、悩むのがアホらしくなってくる、それが読書の効用です。青春時代の読書習慣こそ、一生の財産です。なぜこういうことを言うかと言いますと、若い時に読書の習慣がついていない人が、歳をとってから本を読もうとしてもこれはなかなかできない訳です。若い時の青春時代の習慣が歳をとっても読書をするという習慣になっていく。若い時にもものすごく浪費したり、お小遣いをバァーっと使ってしまった人が 40 歳、50 歳になって非常に始末屋になったというのは、あまりそういった例を歴史は示していない。歴史を読むことの重要性を皆さんにわかっていただきたいなとこう思う訳です。

## 7. 日・米の大学生比較

もう一つ、皆さんこれからおそらく大学に行かれる方が大部分ではないかと思うのですが、日本とアメリカの大学生の比較ということで、一言で言えば日本の大学生は甘やかされすぎている。甘やかされすぎた結果、30 年経ってどうもならなくなっているんじゃないかと、こう思う訳ですから、皆さんには甘やかされないように。甘やかされないようにするためにはどうすればいいかということで、私が言った『代表的日本人』を例えば例として読んでみてくださいよと。米国の大学生は卒業時に平均 400 万円の借金をしている、これは皆さんこんなことをあまり聞かれたことはないと思います。みんな親が出してくれるのが当たり前ではないかと。自分もアルバイトするけれども。だけど欧米、特にアメリカでは 18 歳過ぎたら家を出ていくのが普通なんです。それはアルバイトとか、奨学金とか、自分の責任において銀行から借金をして、大学を卒業してその後返すというのが普通です。私の調べたところでは平均だいたい 400 万円借金している。これは大変なことです。これだけ知っただけでも皆さん親に感謝しないとダメです。自分は甘やかされている。親の中にはあろうことか「あの大学さえ入ってくれたら、俺はなんでもやる」と、「お金なんぼでも出すぞ」と、そんな甘いことをいう親がいっぱいいるかもしれない。そういう親はダメだね。

もう一つは、皆さんはまだ就職のことは考えておられませんが、大学卒業時に一括同

時採用は世界で日本だけです。今国連に参加している国は何カ国ぐらいあると思いますか。  
(生徒指名、生徒が正確に答えたことを非常に褒め、拍手が起こる) 190 数ヶ国ある中で一括同時採用しているのは日本だけです。私は 10 数年前からこれはダメだと言っています。外国では、ある会社の課長というポスト、係長というポストがなくなった時に、その係長や課長、経理なら経理の仕事はこういうことをすると、したがってこういうことをできる人を採用したいと言って、ジョブディスクリプション、ジョブは仕事、ディスクリプションは記述する、職務内容を公開する訳です。それで公開しないと人を採用することができない。就職希望する人はそのジョブディスクリプションを見ないと就職試験を受けるわけにはいかない。当たり前のことです。ところが日本は、大学卒業する時にどういう仕事をしてもらうのか、経理やるのか営業やるのか人事やるのか技術屋になるのか、訳わからないうちに採用してしまう訳です。だからミスマッチが起きる。右肩上がりの平成始まる時まではそういうやり方でも良かったかもしれないけれど、今はなかなかミスマッチして自分に合わなかったと言って辞める人がたくさんいます。その時に何をしないとダメかというと、自分の技術を、スキルを磨かないとダメだ。これから、終身雇用とか定年制は夢物語になります。皆さんのご両親は自分の定年はあと何年だと、そこまで職は保証されているんだから安心だと。お父様やお母様の時はいいけれども、あなたたちの時はそうはいかないかもしれない。なぜかといったら、皆さんの周りにいる親戚だとか両親だとかの会社の名前が、ここ平成 30 年の間に名前が変わっていなかったり、あるいは合併しなかったり、そういう会社は本当に少ないんじゃないかな。どこかと合併した、あるいは吸収されたと、あるいは名前が変わったと。それ以前に 100 歳まで生きる訳ですから 65 歳や 70 歳で定年、おそらく皆さんが将来いつまで働かないとダメか、100 歳まで生きるとすれば 50 年間は少なくとも働かないとダメ、そうしないと国も企業も家庭も間尺合わない訳です。人生 100 年の間に半分しか働かなかったらどうやっていくのか、半分以上働かないとダメだと、ということは大学院まで行ったら 25 歳、それから 50 年、75 歳。それでやっちょぼちよぼか、またはマイナスかもしれない。皆さんは 80 歳くらいまでは働く覚悟を決めて、この青春の時代から準備しておかなくてはダメだと、私はそう思います。

## 8. 文系・理系の区分 -時代遅れ-

それからもう一つ、私が悔やんでも悔やみきれないところは、日本は文系とか理系とか分けすぎだと。文系・理系というのは本当にダメです。これからはどんなところに行っても統計学だとかシステムだとか AI だとか、要するに数学の基礎がやっぱりわかっていないとダメだ。(生徒指名、文系・理系の質問、文系でも大学受験時に数学を受験科目と考えているか、考えていることを褒める) 数学無くしてこれからはない。アスリートでも芸術家でも、AI だとか IT なくしてはこれからの社会では非常にハンディキャップ。これは私の思いですよ。例えばプロ野球のアメリカのメジャーリーグの放送を見た時に、大谷翔平の打球が 180 キロだったとか、投げたボールの回転数が何百回だったとか、ああいうことはアメリカの企

業は全部やっている訳です。日本のNHKだとか、私NHKの経営委員長やっていたけれどその時から文句言っていた。あまりにも定量的でなさすぎる。サッカーのW杯でなくても、サッカーの時に選手は何キロ走ったか、時速何キロで最高走ったと、ボール10回パスされたら盗られずに何回渡したか、全部統計とっている訳です。これは非常に重要なことです。日本はそういう点は非常に遅れを取ってしまった。それは私はやはり文系・理系の区別をし過ぎたことにあるのではないかなと。

私の体験で15、6年前にドイツ人とフランス人とイギリス人とアメリカ人と韓国人と私で話をしていて、文系・理系の話をした訳です。どういう話になったかという、中国の大学生のその時の理系の比率は60%くらいいた、我がドイツは38%しか理系の人間はいないと言ったら、フランス人は我々のところは36%だと、イタリアは37%、その時にイギリス人は、うちはだめだ、28%かもしれないと言いました。(生徒指名、日本の大学生の理系比率を質問)日本は18.9%しかいないんです。20%いないんです。世界では一番低いかもしれない。商学部だとか、経済学部だとか、数学を一番使うところで、私立大学で数学を受験科目に選ばなくても受験、入学できる大学がある、これは本当に危ういことだと思います。そういう話をしていたときに、私の友達のアメリカ人はせせら笑っているんです。つまらない話しているねと。なんでかという、アメリカには、理系と文系を区別する考え方がそもそもないわけです。韓国人もいて、イギリス人もいて、おかしいじゃないかと。アメリカ人はエコノミクス、経済学は文系か理系かどちらかと言われたら、(生徒指名、アメリカでは経済学は理系か文系か)理系なんです。エコノミクスは理系だと。それはおかしいじゃないかと言ったら、アメリカ人は「お前何を言っているんだ、ノーベル経済学賞を過去10年受賞した人の専門を調べてみろ」と言われた。調べたら10人いたんですが、6人までが純粹の数学者だった。しかも、MITのプロフェッサーがそのうち4人もいた。(生徒指名、MITとは何か、マサチューセッツ工科大学と答えた生徒に心密かにそこに行こうかと考えているか?生徒がそこまで真剣に考えてないと躊躇すると、僕もそこまで真剣に考えて質問はしてないね 笑)そこの教授が経済学賞をものすごくとっている。日本は経済学を文系だと思っているのかどうか知りませんが、日本ではただ一つももらっていないノーベル賞はノーベル経済学賞なのです。東大の経済学部の教授、私の親友の二人の教授に別々に「なぜ日本はノーベル経済学賞を受賞できないんだ」と嫌がらせを言ったんだけど、吉川洋先生という、私の非常に尊敬する素晴らしい教授は、東大でX軸とY軸と言ったら、東大生が「俺はX軸とY軸に弱いんだよな」といってガヤガヤして授業にならなかったと。本当にけしからん。今からやっぱり数学、あるいは自然科学。一方、経済学は金融工学だとか数理統計学だとかフィンテックというものが入ってきているわけです。一方、理工の方には、心理学だとか、大脳生理学だとか。財政学というものが数学でないと解けない、財政学なんかでも自分たちのいく分野だと。アメリカのちゃんとした素晴らしいエリートは、大学の時に日本でいう文系を選択したら大学院では理系に行っている。大学の時に理系に行った人は大学院では文系に行っている。そういうケースが非常に多い訳です。考えてみてください。そして、

数学がなくて、商学部だとか、ビジネススクールだとか、経済学部だとか、そういうところはできるだけ行かないようにしてもらいたい。そういう大学から苦情が来たら、私がちゃんとその大学に言うチャンスが増えるものだと思います。

## 9. 質問の重要性

それから質問の重要性。今、富山中部高校で授業した時に、授業の終わりに必ず質問の時間を、5分とか10分、セットする先生おられますか、しておられると思う人手を挙げてみてください。4、5人ですね。これはやっぱり先生に文句を言わないとダメだ。質問というのは非常に重要です。これは企業に行っても、会社に行っても、アスリートになっても、コーチに質問すると。質問というのは非常に重要です。私が今から15年くらい前に中国の広州の中山大学、これは孫文を記念した大学で（孫文の別名中山という号）中山大学で講演した時に、ビジネススクールの大学院ですが、この大学は大学院にいる間に必ず1年間はアメリカとかヨーロッパとか日本に留学しないとダメなんです。そこで私が講演した時にすごい質問をする。私が困る質問をしたら、第一列目にはその大学の教授が座っていて、講師の私が困る質問をしたら、その先生が20人くらいバァーッと立って拍手をするわけです。私がまたそれを切り返すと、私の答えがまたいいと思ったらバァーッと立ち上がって拍手する。その教授たちは自分の生徒が20人とか15人とかしかいないんですけど、賢い質問をするかどうかと、これがまた点数になっている。政治とか会社とか、上意下達、上の意思を下に伝えるということが非常に重要なことだと、トップダウン。しかし、ボトムアップ、意見は下の人からもくるし上の人からもきて絡み合うと、これが非常に新しい価値を創造する。これは芸術でもアスリートでもコーチや師匠、あるいは高校でも大学でも非常に重要なことなんです。質問が非常に重要だということは、ギリシャのソクラテス・プラトン・アリストテレス、この3人はお師匠さん、弟子、孫弟子の関係なんですね。これは非常に対話を重視した。英語で言ったら、ダイアログ(dialog, 対話)ですね。それから議論、ディスカッション(discussion)、1対1で討論、ディベート(debate)、Aが正しいか、Bが正しいかを議論し、30分経ったらAとBと逆の意見になって討論する。それをディベートという。そういうダイアログ、ディスカッション、ディベートを一生懸命やったのがソクラテス・プラトン・アリストテレス。それから孔子、松下村塾。アリストテレスの一番の弟子、誰の家庭教師だったか知っていますか。(生徒指名、アレキサンダー大王の家庭教師) 演劇・詩・歴史・馬術・剣闘これの家庭教師だった。ソクラテスはどこの国の人か知っていますか。(生徒指名、ギリシャ) ソクラテスは世界第一の哲学者と言われるくらいに思われていますけれど、先生に質問する、生徒に質問する、対話することを重要視した。富山中部の授業は忙しいかもしれないけれども、授業の最後の5、6分質問する時間を先生方に作っていただきたいですね。これは非常に重要です。

## 10. 健全な学びは「遊学」にこそ

それからもう一つ。勉強するといった時に、辛気臭くて面白くないものだといったら、これは長続きしない。勉強するんだったら、楽しくやらないとダメだ。これはアスリートでも芸術家でも。大坂なおみは楽しくないとやらない。柔道でもなんでも、長続きしない。孔子は芸に遊ぶと、孔子の時代の芸とはなにかというと、礼・楽・射・御・書・数。礼というのは先祖を祀る礼儀・作法あるいは法律そういうものですね。楽というのは音楽、射というのは射撃、御は馬術、戦車を御する、書は歴史、数というのは数学。孔子は2500年も前の時に、文系も理系もなかった。6つの実際的な、あるいはインテリジェンスとしての、学びが6科目あったんですが、孔子は自分の得意なのは射撃と馬術だとそういうことを言っている訳です。英国の貴族はゴルフとかテニスだとかトランプだとか狐狩りと、これは楽しいからやっている。昔、イギリス人に言われた。トランプで、カードで1回も勝てない人をどうやって外務大臣とか外交官にするのかと。狐狩りをして1匹も狩れない人にどうやって戦の部隊長にするのか、情報のスパイにするのか。平和な時にいざという時のために、みんなからあの人はこんな才能を持っているということがわかるために、楽しく遊びながら自分たちの才能のあるところを見極めていこうと、そういうことでやっているんだ。幕末の志士、伊藤博文だとか、高杉晋作だとか、先ほど言った高橋是清というのは、伊藤博文も幕末前に政府に黙って、ロンドンに留学している。長崎に遊学する。遊学という言葉は中国語にはない言葉です。日本に初めて遊学という言葉がある。これは非常に重要なことです。健全な学びは遊びの中にこそある。だから長続きはするようにしないとダメだと。

## 11. 10～20代の海外留学希望

そういう点で見ると、世界7カ国、10代20代で海外留学をしたいと思う人は何%いるかと、韓国と米国は65%以上留学したい。15歳～27歳ぐらいまでの人です。フランスは60%。日本が一番少ない、35%いない。いま、ここで高校か大学で外国へ留学したいと思っている人、アメリカ、オーストラリア、イギリス、東南アジアでもどこでもいい、留学したいと思っている人、手を挙げてみてください。これは絶対必要ですよ。明治維新の時に国家の役に立った人はほとんどが外国に留学したり、あるいは若い時に遣欧使節だとかに行っている。後から出てくる渋沢栄一も、明治維新の前にフランスの大博覧会に行って、びっくりして、これはいかんと思った訳です。富山中部高校は今、開校100周年ということでOBからお金を集めて、それをなんとか留学を体験してもらいたいと思ってお金を使うんだということを、ここ半年くらい盛んに聞きましたけれど、このチャンスを逃してなるものかと。お金のことはなんとかなる。これは私が言っているのではなくて、先ほど言っているような二宮金次郎だとか新渡戸稲造だとか内村鑑三だとかが言っており、お金がなくてもみんな行っている。外国に留学したいと思わなければならない。それは楽しいし新しい目的ができる。人生の中で非常に有益な目標とかやりたいことは人には一生の中に必ずたくさんあります。例えば自分の周り360度には、360個以上のやりたいことがあるかもしれない。だけどそれは他所へ行ってみないとわからない訳です。富山の富山中部高校を往復してただけで、いくら優秀

な高校だってダメかもしれない、まずダメでしょう。これが、富山中部高校がもう1回、校長先生に来年くらい、あるいは秋くらいにアンケートとってもらって70%くらいになるようにちょっと希望してみたいですね。あまりお金と成績は関係ない。行くことが重要だところだと思います。

## 1 2. 100年前の日本人の世界のベストセラー

ここに100年前の日本人の世界のベストセラーというのがあります。これはちょうど100年から110年前で、新渡戸稲造『Bushido The Soul of Japan』みんな原文は英語で書かれています。アメリカのルーズベルト大統領が金子堅太郎にこれを紹介された時に30冊改めて買って、5人の息子と世界に散らばっているアメリカの公使、その時は大使とは言わずに公使と言っていたのですが、その公使達に読めといった。それで日本に理解を示して日露戦争に日本が勝つことができた。非常に有名な本です。内村鑑三の『Representative Men of Japan』これも非常に有名です。『A Daughter of the Samurai』杉本鉞子という名前を知っていた人、手をあげてください。杉本鉞子さんというのは新潟出身の家老の娘で、14歳の時にアメリカに駐在している日本人と結婚することを親に決められて、それで日本で英語を勉強して、20歳くらいの時にアメリカに渡って二人の子供をつくって、日本に里帰りしようとした時に船の中で旦那さんが盲腸になって亡くなってしまった。だけど非常にアメリカの生活が良かったものですから、もう1回アメリカに行って、自分が育った時の、武士の娘というのはどういう育ち方をしたのかということのエッセイに書いて、本にしたらこれがベストセラーになった。最後はコロンビア大学のレクチャー講師になって、男女を問わずアメリカの大学で講師になった第一番の方です。私が女性の日本人で尊敬する人の一人です。ぜひ調べてもらいたい。特に女性の人は調べてもらいたい。英語で書かれています。この3冊とも英語で書かれています、特に『武士道』は外国のハイソサエティな言葉で、非常に優雅な言葉で書かれていますから、今は受験勉強で厳しいかもしれませんが、1、2年生は夏休みに読んでもらってもいいかもしれない。大学に入ったら是非読んでもらいたいと思っています。非常に我々の明治初年の先人は素晴らしい人がいたんだと。

## 1 3. 渋沢栄一

今度1万円札の肖像画の候補だと言われている、渋沢栄一という人は、日本の経済界の基礎をつくった、民間の経済界の基礎をつくった人です。500の会社をつくったにも関わらず、財閥を作らなかった。富山の明治時代の財界で浅野総一郎とか、安田善次郎とかは財閥をつくった。大谷財閥もそうですね。岩崎弥太郎というのは三菱財閥を作ったんですけど、渋沢栄一という人は財閥を作らなかった。要するに自分の子孫に利点を残さなかった、国家に尽くした訳です。その人は人生に失敗はないと、失敗しないでおこうと恐れることこそ最大の失敗だと。わかりましたか。チャレンジしないとダメだと。失敗しないとダメだと。失敗した途端にそれは経験になる訳だからそれは失敗ではない。だから、失敗しないでおこうと思

ったり、失敗したことがない人は大成は絶対にはないですね。これも頭のどこかに覚えておいていただきたいと思います。それから人生には志を立てることだと、立志。大きな志、小さな志、大学を受験し合格するというのは小さな志かもしれない。大きな志があるかもしれない。それは何かはわからない。皆さんは志はつukらないといけない。志の素晴らしいところは、この志は自分にとって見込みがないと思った時に、新しい志に乗り換えることができる。これが非常に良い。一見卑怯なことに思えるが、それはそうではない。志というのは幾つもの、幾つもの、紆余曲折を経て最後まで志というものを持っていったら人間の人生の生きてるハリが違うだろう。人生には大立志、小立志こそが肝要だと、こういうことを言っております。

#### 14. 結び

中部高校の校訓か何か知りませんが、鍛錬・自治・信愛。これは60年くらい前のときも富山中部の校門のすぐ近く、ヒマラヤ杉の木陰にこの碑が建っていた。人間一生鍛錬だと。鍛錬というのは、短い時だけ鍛錬というのは昔はそうだったかもしれない、青春時代、特に鍛錬、鉄は熱いうちに鍛えろと言いますが、100年までずっと鍛錬続けなければならぬ。自治というのは、自分で自活することです。経済的に自活すること、年金だけで暮らそうなんてそんなうまい訳いきませんよ。年金で暮らすというのはどういうことか。年金で暮らしたい人に原資を与えて抛出するという必要だと思えます。信愛というの、信用するとか、愛される、愛するというは、これも間違わないでください。周りの人から信頼され愛されるような人間になれ、そういうことなんです。私の大学の母校、札幌農学校のクラーク博士はBe Ambitious 大志をいだけ。最後の別れの時に言った、一言だけなんです。それまでは1年中毎日Be Gentleman 紳士たれ、今だったらBe Lady。青春時代の時に勉強して、心の中で紳士的であろうと倫理観だとか、そしてなおかつ野心、大志を持つと。そういう青春を過ごしていただきたいとこう思っています。ご静聴ありがとうございました。

司会：先生には長時間にわたり熱弁していただきありがとうございました。

ここでせつかくの機会でありますので、生徒の皆さんからただいまの講演にもありましたけれど、数土先生への質問があればお受けしたいと思えます。

質問する場合は、最初にクラス名と氏名を告げてから質問するようにしてください。

生徒 3年男子：質問ではなく感想なんですけれど、数土先生は中国古典がとても好きだということで、学校の授業で論語や韓非子などの古典を読むのですが、特に韓非子では今の私たちから見ると、極端に思う考えも結構あると思うのですが、そのような異質と思えるようなものを受け入れることが成長に繋がるということがわかって。冒頭で先生がおっしゃったことに、学習意欲と読書習慣が日本の成長に繋がるということがありましたが、私も多くの書物から様々な歴史を学んで志を高く持って、本校の校歌にもあるような日本の未来を担い立つような人材の一人になりたいと思えます。本日はありがとうございました。

講師：今のやり方は非常にいいですね。外国では技術的な研究発表の時でも、質問と言って最初の3分間は感想なんです。あなたのように。日本は、我々は英語があんまり聞き取れないものですから、感想言っている間に答えようとする。だけど、感想言った後に、by the way my question is～とこう来るわけで。私の感想、ありがとうございます。

生徒 3年男子：非常にこれからの学びにつながるような意欲的で素晴らしいお話だったので、興味深く聞かせていただいたんですけど、ところで、私の質問は、先生は今の日本の教育制度の文系とか理系とか別れているのはちょっとおかしい、とおっしゃっていたんですけど、実際そういうのは日本の今の文化の違いだったりとか外国とのいろいろな違いがあって、今の形に落ち着いていると思うんですけども、これから制度改革などが行われた時に日本の教育制度というのが欧米と同じようなものになるのは実際あり得ることでしょうか。

講師：これは今も非常にいい質問ですね。今、政府も大学で文系の人を理数離れしていたというのは非常に重要視してきて、大学でもう一度統計だとかITだとかAI、文系の人にも教育する時間を作らないとダメだとかこう思って、そういうプログラムを考えてますね。そう思いますね。ところであなたは文系ですか、理系ですか。(生徒：理系です。) 私があなただったら「両方です」と答えますね。

生徒 2年男子：本日の先生のお話では先人の言葉とか著書とかから多くの内容を引用されていて、先人たちの考えていたことが現代社会でも活かせるんだよ、まさに「温故知新」という考えが重要なんだとすごくわかりました。ところで、私の質問ですが、先生が講義をされた大学で、前列に教授が20人座っていて、質問が良かったら拍手が巻き起こった、というお話があったのですが、その教授の方々はどうやってその質問を数値化して評価されていたんですか。

講師：今もすごい質問ですね。それは前に座っている教授が、その質問の内容を聞いて生徒がどういう反応を示すか、講師が嫌な顔をするか、しめたと思う顔をするか、それから自分自身が、教授の人たちが思ってもいない質問だったかどうか、そういうことを総合して拍手したり、小拍手したり、拍手をしなかったりそういうことをやっていたと思います。それが生徒に、自分が先生方にどういう評価を受けたかまた跳ね返ってきて、教育効果が非常に上がると思うんです。

生徒 3年男子：今回このような機会をいただきありがとうございます。講義を聞いていて思ったのが、自分達が今この学問を学ぶ意味はどこにあるのかという疑問を持ったりするんですけども、今回のお話の中で、例えばアメリカだったら文理の区別はないということですが、



個人的には文理をまたぐことで様々な学問の繋がりとかを感じられることによって、そういった疑問を解決されるのではないかというふうに思うのですけれども、なぜ、日本は現在文理を分けているかなと思いました。

講師：これも非常にいい質問ですね。今の質問をあなたの担任か進学指導の先生に1回聞いてみたら、あるいは校長先生に質問してみたらいい。1回校長先生に文系理系をどう思うかと聞いてみてください。

生徒 2年女子：先生のお話の中で「自分の時間」の話がすごく心に残ったというか、みんな平等なんだな、でも平等じゃないんだなというのがすごく心に残りました。ところで、疑問でもあるんですが、先生は人間はどうして時間を無駄にしてしまうのだと思われませんか。

講師：あなたもするどいね。やっぱり、時間は完全に平等に一人一人に配られているわけです。皆さんまだ高校生だからわからないですけど、会社に行ったら、特に会社の経営者になったら時間ほど会社に重要な財産はないわけです。家庭でもそうです。だから今働き方改革。あれは何を言っているかという、時間を大切に使っていないとそういうことを言っているわけです。今の質問は、なんで時間は大切にされていないのかとその原因どう思うかと、それは皆さんの年代では、時間が収入に結びついていないからです。それから、今の時間は、比較的あなただけのもので、あなたの時間がお父様やお母様、あるいは兄弟などから全く独立して関心を示されず、自由だからです。自由な時こそ青春なんです。青春の時にぼやっとしてしまって、誰も関心を示さないから自分も関心を示さない。従ってあんまりその時間というものを大切に思わない。これが社会に出たら時間というものがいかに大切か「時は金なり」と昔からいう。青春時代を無駄に過ごさないでください。非常にいい質問でした。

生徒 3年男子：My question is quite simple. What should we do to be ambitious?

講師：非常にこれもいい質問ですね。それは、まず校訓だと。鍛錬・自治・信愛。この3つは非常に重要です。鍛錬というのはスキル、自分が100歳の人生過ごすのに、80歳まで働かなければならないというのは当たり前になってくる。その時に何をしないとダメかと、鍛錬。自治というのは自分は経済的に自立しないと自治ではない、誰かから借金して、あるいは誰かから雇われて、それで自治なんて言えない。それから、周りの人から信頼もされていない。愛されてもいない。そういう時に、この3つをやるためにどうすればいいかと、一生懸命考えたら、そしてそういうことを全うして100歳の人生を過ごすんだと考えたら、自然にAmbitious、How to doが出てくる。自分で考えないで人に考えさせると、そんな横着なこととはだめだと。いい質問でした。

生徒 3年女子：先生のお話をうかがって、積極的に外に出て、積極的にいろんな人とやり取りをすることがいかに大切かということを知りました。私は常々、世界に学ぶことも大切なんです。それと同時に日本人としてのアイデンティティーも持ち続けるのが大切ではないかなと考えているのですが、先生は海外に行かれた経験もあると思いますが、海外に行って日本の足りないところ、そして逆に日本が他の国よりも優れているところ、日本の誇るべきところというのはどこなのか、教えていただきたいです。

講師：今も非常にいい質問ですね。まず日本人が外国に行って日本の国歌が流れた時に、「君が代」を一緒に立って歌わないと、これが一体日本人かと。「君が代」が鳴っている時に真剣な顔をして一緒に国歌を歌わない日本人を、外国人が見たら、もう軽蔑されます。逆に、タイなどに行ってタイの国歌が流れている時に我々が起立して敬意を表さなかったら、不敬罪で逮捕されることだってあります。そういうのはやっぱりよくわかってないとダメです。それから、日本の歌舞伎だとかあるいは明治維新だとかそういうものを質問された時に答えられないと、その時に全部が答えられるということはないわけです。まして、皆さんはまだ青春時代、10代。そういうときに、答えられないことは答えられないと。ただし、あなたの言っていることは日本の詳しい、もっと本質のことを知りたいんでしょ、と。その時に、私の両親は私にこういうことを言うの、これは日本のいいところではないかと、こう思うわとか、答える用意は常におこななければダメだ。日本には世界で初めての源氏物語というすばらしい恋愛小説があるのよとか、そう言うことはやっぱり言わないとダメですね。あることで答えられなかったとしても、それは答えられない、帰ったら調べてあなたにまた手紙で知らせるわ、と。ただし、それと関連した文学のことが聞きたいんでしょ。紫式部と言う人がいて源氏物語という物語があって、これもまた難しい恋愛小説なんだと。そう言うことが言えるかどうかなんですよね。

生徒 3年男子：先生は今後、文系理系は廃止しなければならないということについて、私も共感しました。私が以前聞いた話によると、AI、ITは産業革命以来の頭脳労働とは違う、筋力労働による人間労働の代替えとか言われているんですが、AIやITは人間の頭脳労働の代替えと言われている。そう言う場合に先生は経営者も歴任されているのでお聞きしたいのですがAI、ITを労働力として導入するか、今まで通り人を労働力として頭脳労働として参画されるか、どちらを選ばれますか。

講師：すばらしい質問ですね。その前にAI、ITについて少し申し上げておきますけれど、ITとAIは2進法なんです。0か1。しかも、ITとかAI化しようと思ったら数値化、定量化しないとダメなんです。顔の画像解析でも全部定量化から始まっているわけです。定量化というのは数値化ですね。デジタル化。これは一つ覚えておいてください。それから、ITとかAIがやってきたら我々の将来の仕事がなくなるんじゃないかとそう言う心配にも関連した質

間だと思えますけれど、そんなことはありません。AI を使う仕事はまたでてくる。そういう風に考えたほうがいい。我々は新しい仕事はどれだけでも作ることができる。そういう新しい価値の創造、定量的なものをやるためにも、若い時から文系理系今まで言われていたものをミックスして勉強したほうがよりとっつきやすいですよ。私は文系理系をなくさないでダメだと断言しているわけではない。なくしたほうがいい可能性がすごいあると言っているんですね。

生徒 2年男子：10代のうちにたくさん勉強して本を読むことが大切だと言うことを教えていただき本当に貴重な経験でした。ありがとうございました。そこで質問ですが、私は本を読むのが本当に嫌いで、歴史の分野もそんなに好きじゃないんですが、お話を聞いている中で先生はおそらく本を読まれるのがお好きだと考えられるんですが、先生の考える、本や歴史を読んで先人の考えを取り入れることの魅力とはなんでしょうか。

講師：これも非常にいい質問ですね。だけど、あなたはそのうち本を読むことが好きになるよ。予言しますよ。本を読むところのいい面は、人間は人生50年よりも100年になった時に、喜びも倍になるけれども、悲しみだとか困ったこともチャンスは倍になると言うことなんです。その困った時にうつになって自分自身がシュリンクしていくか、望みを無くしていくか。もしそういうことになったら非常につまらないことです。ただし、先人の歴史だとか、過去に生活した、2500年文書に残っている人たちのことを読むと、いかにみんな苦労しているかと、そう言うことを読めば読むほど自分が今悩んでいることは大したことがないと、これがわかるんです。だから人生において、失望にならなくて大したことがないと、悲しみだとか失望だとか打ちひしがれた気持ちがなくなっていってしまうと。これが最大の功德じゃないかこう思います。人生100年になったら、喜びも倍になるかもしれませんが、がっかりしたり失意のどん底に陥るチャンスもまた倍以上になるということは、これは確率的に言って確かなんですけれど、その時に救ってくれるのは読書であり歴史であると、これを忘れないでください。

司会：最後にいい質問が出ました。ありがとうございました。それでは、学校の先生方からの質問を受けたいと思います。

3年 教師：最後5分に質問時間は実はとってなくて、授業中が常に質問時間だと思い授業をさせていただいております。私も常日頃、生徒に文系理系とかそういう問題じゃないんだよと話をしてまいりました。そこで今後、文系理系を問わず活躍できるような生徒を育てるために、我々教師としてできることを、先生のご経験からアドバイス頂きたいと思います。よろしくお願いします。

講師：すごい質問ですね、先生なかなか見込みありますね。これは数学をどうやって興味深く、興味を示さない人にもわかってもらえるかと。例えば高校の2年か3年くらいで微分積分というのを勉強するのでしょうか。微分積分の時に、微分の考え方というのは加速度だとか偏回帰係数だとかそういうことを教えてもらって。だから、先ほど19歳の時が一番の伸び代だと言った時に、伸びる加速度が一番、加速度だとか偏回帰係数だとか、実際の社会においてわかりやすく説明していただくと、そういうことが非常に重要なんじゃないかなと思います。もう一つ、関心を示さない生徒さん必ずおりますから、その時に関心を示すような逆の質問を、私が今日「ちょっとあなた」と言ってあてたように質問して当てないとダメですね。外国は絶対それをやると思いますね。

3年 教師：日々鍛錬させていただきます。

司会：最後に神通会会員の方から質問を受けたいと思います。

神通会 品川：平成元年に卒業しました、41回生で現在神通会副会長を務めております、品川と申します。数土先生、今日は素晴らしいお話ありがとうございました。在校生の皆さんへのエール、また数々の示唆に富んだ事例を交えたお話、そして現状の様々な問題点、一つ一つ胸にしみて理解できるお話で、あっという間の時間、感激して聞いておりました。ところで質問なんですけれども、メインテーマであります、立志、志を立てる、持つということはなかなか難しいことでもあるというふうに思います。先ほども質問された学生さんがおられましたけれども、鍛錬・自治・信愛、校訓の生き方を考えることだと先生はおっしゃいましたが、私も自分の志というものを常に考え続けることであると、自分では思っております。そして最後刺さったのは、志はどんどん乗り換わっていく、どんどん更新されていく、バージョンアップしていくというお話がありまして、今会社を経営させていただいているんですけれども、ついに自分の生きる目的、人生の意義、自分が生まれてきた意味を自分で考え続けることだと思っておりますが、最後に先生から在校生の皆さんに志を持つ、志を見つける、次乗り換えていくにあたって、アドバイス等ございましたら、なにしろ先生自身が志をどういうふうに乗換えてこられたかお伺いできると大変ありがたいです。どうぞよろしくお願い致します。

講師：今の質問も非常に重要です。だけど、志というのは先ほど言いましたようにどんどん変わっていくのが志だと。1回決めたら最後までやる、これはいかがなものかと。この志はだめだと途中で気づくことがあるわけですから。だけど、もっといい志があるんじゃないかというのも、やっぱり読書していた方が非常に早くそれに気がつく。先人はもっといい志を持っている、なんでこの人はこんないい志を持ったんだろう。例えば内村鑑三はなぜ代表的日本人という、ああいう小説を書いたんだろう。杉本鉞子さんは女性で公的な教育も1回も受けた

ことないのに、なんでコロンビア大学の講師になったんだろうとそういうことをやっぱり考えてみる。そういうことを考える中であって、自分の今までの志をちょっと横に置いて、よりいい志に立ちかわると、そういうこともまた思いつくのが読書じゃないかなとこう思うわけです。答えになっているかどうかわかりませんが。どうもありがとうございました。

講師：ちょっと最後に皆さんに言うておきますけれども、質問することは小ぢやかな勇気なんです。この小ぢやかな勇気が打ち破れないで実践できなくて、大きな勇気は絶対にできないです。質問する時にこの質問は先生からもみんなからも笑われるんじゃないかと、こういう気持ちは日本人は特にそう思うかもしれないけれども。日本には愚問という言葉があるんですけども、外国には愚問なんていうのはないんです。質問は全部、good question、あるいはexcellent question なんです。こういう質問をして恥をかくんじゃないかと。質問をしないことこそ恥ですよ。



司会：ありがとうございました。それでは、先ほどもご案内いたしました、敷土先生にはこの春の叙勲におかれまして、旭日大綬章という最高位の勲章を受章されております。この受章をお祝いいたしまして生徒代表から花束の贈呈があります。花束を贈呈する生徒は、生徒会副会長です。先生、ステージの中央の方へお願いします。

(花束贈呈)

司会：最後に福島英晴校長よりお礼の言葉があります。

校長：敷土先生、本日は大変お忙しい中、本校の生徒達のために「10代・青春、夢は世界に向けて」の演題でご講演いただきまして、誠にありがとうございました。講演では青春についてから始まりまして、人生の青春時代、立志の始まり、学びの始まりなどなど多岐にわたって大変興味深い、そして楽しいお話をしていただきました。生徒にとっても今日は大変有意義でこれからの人生の糧になる話だったと思います。講演が終わった後も生徒のほうからたくさんの質問が出て、知識の深まりがあり、また化学反応を起こして、この会場がうまく活性化したのではないかと考えています。また、私も色々と勉強させていただきました。

話の中で印象的だったのは、一つには質問の重要性です。学校において、授業において質問ということなんですが、やはり生徒側からして考えてみれば、授業の中でわからない点、そういった点は積極的に質問することが大事だろうと思います。また教員の側からしてみればこれからは知識注入主義の授業ではなく、主体的、対話的で深い学びの授業の改善に努めていかなければいけません。そういった意味では生徒の質問を促すような、授業展開も必要であるのではないかと考えております。先ほど、最後の5分間のところで質問の時間をとっ

ているのではなくて、授業全体の中で考えているんだというふうに言われましたけれども、それはそれでいいのではないかと思います。生徒、教員がお互いに考えあつていくことが大事なんだと思います。質問をするには小さな勇気がいると、言われました。そして、小さな勇気がなければ大きな勇気は生まれないんだと。これは大事なことだと思います。このことは生徒の皆さんにはしっかり心に留めておいて欲しいと思います。

もう一つなんですけれども、人生において、夢、目標、そして志を立てることが非常に大切であると。志を成し遂げていくためには、日々自己研鑽していかなければいけない。志はやはり 10 代の時に立てることが必要である。小さな志を立てて、それが変わっていてもいいんじゃないかと。生徒の皆さんは小さな目標でもいいです。何かしらのものやっぱり持って行ってほしいなと思います。そして、失敗を恐れない、人生に失敗なんてないんだと、失敗を恐れることこそ最大の失敗であるというふうに言われました。このこともしっかり頭に留めておいてほしいなと思っております。

結びになりますけれども、改めまして旭日大綬章受章、どうもおめでとうございます。先生は本校の誇りであり、これからもますますご健勝でご活躍されますことを心からお祈り申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

司会：数土先生には、大変感銘を受けるご講演ありがとうございました。ここで退出されますが、大先輩に感謝の気持ちを込めて、今一度盛大な拍手をお願いいたします。  
以上で神通会講演会を終了とさせていただきます。皆様方にはご協力いただきましてありがとうございました。